

## 別紙

## 温室効果ガス排出削減計画

氏名	(法人にあつては名称) 旭化成株式会社		住所	(法人にあつては主たる事業所の所在地) 〒 712-8633 岡山県倉敷市潮通三丁目13番地	
本票作成	部署名：水島製造所 環境安全部 環境グループ				
主たる業種	分類コード	16	業種名：化学工業		
事業の概要	石油化学系基礎製品製造業・プラスチック製造業				
県内の主な工場等	番号	工場等の名称		所在地	
	①	旭化成株式会社【B地区】		岡山県倉敷市潮通三丁目13番地	
	②	(以下を含む)			
	③	P S ジャパン株式会社 水島工場		岡山県倉敷市潮通三丁目13番地	
	④	旭化成株式会社【C地区】		岡山県倉敷市児島塩生字新浜2767-11	
特定事業者の該当要件	<input checked="" type="checkbox"/> ①燃料等原油換算1,500kl以上 <input type="checkbox"/> ②バス・トラック100台、タクシー250台以上 <input checked="" type="checkbox"/> ③CO <sub>2</sub> 換算3,000t以上 (●工場等の数                          2                  所                  ●車両台数 (②該当の場合)                          台)				

計画期間	平成 28 年度                          ~                          平成 30 年度                          ( 3 箇年度)		
削減目標	いずれかを選択	<input checked="" type="checkbox"/> 総排出量基準 <input type="checkbox"/> 原単位基準	
	目標削減率	28.8 %	
温室効果ガス排出量	基準年度 (平成 27 年度)	1,334,160 t CO <sub>2</sub>	
	目標年度 (平成 30 年度)	950,000 t CO <sub>2</sub>	
基準年度の主な工場等の排出量	番号	工場等の名称	基準年度 (平成 27 年度) の排出量
	①	旭化成株式会社【B地区】	1,334,160 t CO <sub>2</sub>
	②	(以下を含む)	t CO <sub>2</sub>
	③	P S ジャパン株式会社 水島工場	t CO <sub>2</sub>
	④	旭化成株式会社【C地区】	t CO <sub>2</sub>
			t CO <sub>2</sub>
			t CO <sub>2</sub>

※ 「計画期間」欄には、5箇年度以内で特定事業者が定める期間を記入する。

(原単位基準の削減目標を選択した場合に記入)	温室効果ガスの排出量と密接な関係をもつ値の内容	原単位当たり排出量	
		基準年度	目標年度
			CO <sub>2</sub> / ( )

(該当事業者のみ記入)

ベンチマーク	対象事業の名称	ベンチマーク指標	関連数値 (平成 27 年度)	達成率 (%)
指標の状況				

## 【目標削減率設定の基本的な考え方】

水島製造所では、水島構造改善の第2ステップを完了した。  
2016年度にこの成果を把握し、今後の新規事業の立地までは、これまでの削減レベルを維持していく。

(温室効果ガスの削減活動は全社で取り組んでおり、他地区の主な活動も後述で参考記載)

**【目標削減率達成のための推進体制】**

社長――地球環境対策推進委員会――地球環境対策実行委員会、およびLCA専門委員会

- 【役割】**
- ・地球環境対策推進委員会：グループ全体の地球環境対策を審議・決定
  - ・地球環境対策実行委員会：地球環境対策推進委員会の決定事項に対し、具体的な活動を展開
  - ・LCA専門委員会：グループへのLCAの普及、グループ製品及び研究開発中の製品のLCA評価を実施

**【排出量削減のためのこれまでの主な取組】**

工場等の名称	取組内容
* 水島地区	・高効率ボイラへ更新等、省エネの推進、事業の再編成の推進
* 延岡地区	・一酸化二窒素の分解（600万トン削減：二酸化炭素換算）
* 鈴鹿地区	・発泡剤の転換（18万トン削減：二酸化炭素換算） <その他全般> スワップ、モーダルシフト、節電活動 等

**【計画期間中に目標削減率を達成するために実施する措置】**

工場等の名称	措置内容
* 水島地区	・削減レベルの維持活動
* 延岡地区	・バイオマス発電の稼働（17万トン削減：二酸化炭素換算） 2012年8月～の実績評価等継続
* 守山地区	・ガスエンジン導入による発電効率の改善
* 川崎地区	・ガスタービン式コージェネレーション設備導入の検討  <その他全般> 省エネの推進、スワップ、モーダルシフトの推進 節電活動の継続、クールビズ推奨期間の設定（本社・事務所地区）、 昼休み&ノー残業デイの一斉消灯（本社地区）、 PC省電力モード設定の推進

**【森林保全等吸収源対策への取組計画】**

県内での取組	有	「倉敷美しい森」の森林保全活動へボランティア参加（植樹・下草狩り）
その他	有	宮崎県で「あさひの森」20haで2007年度から5年間植林し、その後10年間管理する計画で取り組んでいます。今後、さらに20haを追加する予定。

**【再生可能エネルギーの導入計画】**

県内での取組	無	
その他	有	・宮崎県延岡支社では、水力発電およびバイオマス発電の継続。 ・その他地区へのバイオマス発電展開の検討。

**【その他特記事項】**

<排出量の算出について>

- 1) エネルギー起源 : 省エネ法報告値（中電クレジット補正前）を使用
- 2) その他 : 生産活動に伴う排出量を算出して使用
- 3) 排出量の外数 : 石油タールピッチ由来の二酸化炭素【対象区分に該当せず】は、実績報告の外数として、その量を特記事項欄に明記する。

※2016年4月1日付けで、「旭化成ケミカルズ」は「旭化成」に吸収合併され、社名が変更となっています。